

安城市避難行動要支援者 個別避難計画作成要領

令和6年1月

はじめに

近年多く発生している豪雨災害において、高齢者や障害のある人が被害に遭いやすくなっています。また、東日本大震災においては、亡くなった方のうち約6割が65歳以上の高齢者でした。

これらの原因として、災害発生時や発生する恐れがあるときに、避難の判断が一人でできないことや、避難先までの移動が難しいことなどが考えられます。

このように高齢者や障害のある人に被害が集中していることに加えて、避難が適切に行われなかった事例があることから、災害が起こる前から避難について具体的に考え、備えておくことが重要となります。

そのため安城市では、一人で避難することや、避難の判断をするのが難しい方（避難行動要支援者）を対象として、一人ひとりに合った「個別避難計画」の作成に取り組むこととしました。

この個別避難計画を一人ひとりの現状に合った内容のものとするため、まずはご本人やご家族に計画作成に取り組んでいただくと同時に、町内会、町内福祉委員会、自主防災組織及び民生委員といった、お住まいの地域の事を良く分かっている方々や、ご本人の状況を把握している福祉専門職の方々にも関わっていただき、災害時における適切で実効性のある避難行動につなげる取組を進めてまいります。



「安城市個別避難計画同意書兼計画書」の記入について

■用語説明、留意事項、同意欄など(1ページ目)

このページには、大きく次の3点が書かれています。

- 用語の説明
- 個人情報の取扱いについて
- 留意事項について

内容を十分理解していただいたうえで、同意の署名をしてください。自筆で署名できない場合は、記名(代筆、ハンコ、印字などにより氏名を記載すること。)をし、押印してください。

本人が未成年者、成年被後見人である場合は、その代理人が、代理人の情報を記入してください。

同意されない場合は、平常時に情報が提供されることはありませんが、災害発生時には避難支援等の実施に必要な限度で、避難支援等関係者その他の者に対し情報提供される場合があります。

■個別避難計画書(2ページ目以降) ※太枠内は必ず記入してください

本人について

- 氏名(フリガナ)、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX・Eメール等
- 避難先

水害…「安城市水害ハザードマップ」で浸水深を確認し、自宅内で2階以上への垂直避難等が可能な場合や、自宅が浸水の恐れがない(浸水想定範囲外である)場合は、それぞれ当てはまる口にチェックを入れてください。チェックが入った場合は、避難先を自宅とすることができます。

安城市水害ハザードマップで色のついている地域にお住まいで、垂直避難が不可能な場合は、色のついていない地域の親族宅や避難所等を記入してください。

水害ハザードマップは下記 QR コードよりご覧いただけます。



←安城市ホームページ「水害ハザードマップ」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/yakudachi/hazardmap/index.html>

地震…自宅が倒壊した(またはその危険がある)場合の避難先を記入してください。

- 避難方法(移動手段・所要時間)

地震の場の移動手段は原則徒歩です。道路のアンダーパスや水路・河川付近など危険が予想される箇所を避けるルートを検討して、所要時間を記入してください。

地域のルール

地域や町内会で決まったルールがあれば記入してください。
(連絡カードの掲示・目印の布を結ぶ 等)

必要な持ち物

避難時に必ず持ち出すもの(薬など)や、非常持ち出し袋の保管場所などを記入してください。

必要機器

避難支援等を必要とする事由

避難時に配慮が必要な事項

避難サポーターについて

避難するかどうかの判断や、避難をするときに支援が必要な場合は、「避難サポーター①」にご記入ください。(※「避難サポーター②」は記入自由です)

自分自身で避難の判断や避難することが可能で、避難サポーターが必要ない場合は、「避難サポーター①」及び「避難サポーター②」の記入は不要です。

氏名又は名称(フリガナ)、続柄等、住所又は所在地、電話番号、FAX・Eメール等
避難サポーターになっていただく方(実際に避難支援をする方)にあらかじめ同意を得たうえで記入してください。

続柄等には、親族であれば続柄、親族以外であれば本人との関係(近隣、町内会組長等)もしくは所属(〇〇事業所)等を記入してください。

ご近所の個人を特定して書いていただくことが望ましいですが、〇〇福祉委員会、〇〇町の見守りネットワークなど、地域の団体名を書いていただくこともできます。

支援方法(情報伝達、安否確認、避難先へ同行、その他)

避難サポーターに依頼をする際に、どのような避難支援を行うか相談したうえで、「情報伝達(避難に必要な情報を伝達する)」「安否確認(避難所運営者への伝達を含む)」「避難先へ同行」「その他」のいずれかにチェックをしてください。

同居家族について

続柄(避難行動要支援者本人から見た続柄)、人数(本人を含む人数)

家族と一緒に避難できる時間帯(日中独居の場合、夜間等)

ペット

緊急時連絡先について（※①はできるだけご記入ください、②は記入自由です）

氏名(ふりがな)、続柄等、住所、電話番号、FAX・Eメール

続柄等には、親族であれば続柄を書き、親族以外であれば本人との関係(友人、近所の方、町内会組長等)もしくは所属(〇〇支援事業所)等を書いてください。

地域について

町内会

民生委員(わからない場合は記入不要です)

その他（※必要に応じて記入してください）

避難先での配慮事項

避難生活において配慮が必要なことがあれば記入してください。

利用しているサービス等

日常的に利用している福祉サービスについて記入してください。

利用サービスの週間予定表を別添資料として添付していただくこともできます。

地域包括支援センター、介護支援専門員、相談支援専門員

別添資料

計画書のみでは必要な支援の情報が不十分な場合には、必要に応じて資料を添付してください。

避難経路

水害・地震それぞれの災害について、自宅から避難所までの移動経路(地震の場合は原則徒歩)をご記入ください。

地域で「手づくりハザードマップ」を作成している場合は、危険箇所等を参考にしてください。

印刷した地図を貼る、地図を手書きする、文章で書く等、書き方は自由です。

自宅図面（※必要に応じて記入してください）

自宅内で避難支援を行う可能性がある場合は、出入口・避難行動要支援者本人の寝室及び普段過ごしている部屋を記入してください。

※計画作成をするうえで、不明な点がございましたらお問い合わせください。

問合せ先 安城市福祉部社会福祉課社会福祉係

電話:0566-71-2262/FAX:0566-74-6789

Email:shakaifukushi@city.anjo.lg.jp